

13 (ズルズルズル...)

14 「おい、そば屋、<sup>ほんとう</sup>本当においしかった。また明日来るよ。

15 えーと、いくら？」

16 「十六文<sup>もん</sup>です」

17 「小銭<sup>こぜに</sup><sup>1</sup>しかないんだ。<sup>まちが</sup>間違えるといけないから、手を出

18 してくれ」

19 男は、そば屋の手の上に一文<sup>もん</sup>ずつ<sup>お</sup>置きます。

20 「一、二、三、四、五、六、七、八...今何時だ？」

21 「九時です」

22 「十、十一、十二、十三、十四、十五、十六。はい。十六

23 文<sup>もん</sup>。じゃあ、またな」

24 「ありがとうございました」

25 男はどこかへ行きました。しかし、近くから与太郎<sup>よたろう</sup>とい

26 う男の人が見ていました。

27 「何だ、あの男？ちょっと変<sup>へん</sup><sup>3</sup>だぞ。「一、二、三、四、五、

28 六、七、八.....今何時だ？九時です。十、十一、十二、十

29 三、十四、十五、十六』あ、一文<sup>もん</sup>少ない！あの人、うまく

30 やったな。おもしろい、おもしろい。俺<sup>おれ</sup><sup>4</sup>もやる」

31 与太郎<sup>よたろう</sup>は、お金を持っていなかったから、その日は家へ

32 帰りました。次<sup>つぎ</sup>の日、小銭<sup>こぜに</sup>を用意<sup>ようい</sup><sup>5</sup>してて、そばを食べに

33 出かけました。与太郎<sup>よたろう</sup>が歩いていくと、そば屋の屋台<sup>やたい</sup>があ

34 りました。

35 「おい、そば屋」

36 「いらっしゃいませ」

<sup>1</sup>'kleingeld'

<sup>2</sup>'één mon tegelijk'

<sup>3</sup>'vreemd'

<sup>4</sup>'ik'

<sup>5</sup>用意する 'klaarzetten'